「只見 移住物語」

地域おこし協力隊を経て、任意団体「森林(もり)の里 応援団」森林(もり)の分校 ふざわ 管理人

【移住者のご紹介】

・お名前：藤沼 航平(こうへい)（30 歳）

・ご家族：藤沼 祐紀(ゆうき)（妻 29 歳）

・いつ：2017 年 4 月

・どこから：栃木県 下野(しもつけ)市

・どこへ：只見町 大字 布沢(ふざわ)

・いましていること：任意団体「森林(もり)の里 応援団」森林(もり)の分校 ふざわ 管理人

・まえにしていたこと：全農 とちぎ 職員

森林の分校 ふざわ 玄関にて

【始まり】
大学在学中から全農とちぎに勤務しているときも週末になると継続して、この集落 布沢に通っていました。最後の方はほぼ毎週末来ているような感じでした。いっそここで貢献できる仕事があるなら、通うのではなくここで働こうかと思い始めたころあいに、地域おこし協力隊の募集をしていることを知り、応募しました。そもそも布沢との関係は大学 3 年生の時、2010 年だったと思います。私の専攻は農業経済学科で、農村社会学というゼミに入っていたのですが、授業の一環で「地域振興」とか「農村振興」、「地域作り」を勉強する過程で関わり合いになるきっかけが生まれました。

大学生の力を使って地域活性化をするというゼミがありました。今も継続してあります。福島県が、大学生の力を使って地域活性化を図りたい地域、集落と日本全国の大学をマッチングさせていて、たまたま布沢集落が手を挙げ宇都宮大学とマッチングすることになりました。それで布沢を訪れることになりました。学生時代から通算すると 5〜6 年 布沢に通ってから地域おこし協力隊としてきました。

社会人の経験は 4 年間 全農とちぎで働きました。最初の 2 年間は総務課で管財関連の仕事を、後半は園芸部で勤務しました。例えば野菜関連事業で保険的な業務があるのです。組合員の方が加入していて野菜の価格が下落したようなときに、積み立てたものから保険金を支払うと言ったような補助金業務です。もう一つは切り花の営業です。農家が作った切り花を市場に売ると言う仕事です。栃木県花きのメイン市場は東京の市場（大田市場と世田谷市場）と仙台市場なので、両市場に営業で通っていました。その全農を 2017 年 3 月に退職、翌月 4 月に引っ越してきました。

【家族】
迷いはなかったので両親へ相談することはありませんでした。一社会人で自立もしていたため、両親に相談するという選択肢は考えませんでした。全農を退職し、布沢に行くことが決まってから、両親へ報告をしました。母は、常になんであっても応援してくれるので「貴方のやりたいことをしなさい」と背中を押してくれました。父は、現状から大きく変化すること、安定した全農を辞め、どこにあるのかわからない場所へ行くことが、理解できなかったようで戸惑い、動揺していました。

学生時代から社会人になった後も布沢へ通い続けた 6 年間、その間に私が悩み、考えたことを、いっぺんに理解することは難しかったのだと思います。いまの父親は、私がしようとしていることを理解し、見守っているといった感じです。

【準備】
仕事をしながら毎週只見に通い、いつかここに来てなにかをしてみたいとは思っていました。決断したタイミングは明確ではありませんが、地域おこし協力隊の募集が出たのが 2

月で、募集が出て 3 日後に電話をした記憶があります。当初 只見町では地域おこし協力隊募集がなく、隣の南会津町に応募しようかと考えていました。南会津に応募しようと考えていたさなか、只見町からも地域おこし協力隊の募集が出たのです。地域おこし協力隊の募集情報を扱うサイトがあり、そのサイトを確認していました。

地域おこし協力隊のミッションは、布沢 森林の分校を拠点にして山村振興を企画・実践することでした。只見町が住居を用意してくれることになっていました。面接するときにわがままを言わせてもらい布沢に住みたいとお話をして、探して頂きました。

【現在】
地域おこし協力隊となった際に、地域おこし協力隊の任期は最大 3 年という事を知っていましたので、任期を終えたらどうなるのかなとは思っていました。しかし、いまその答えが具体的に見えてきたとところです。

【変化】
移住後の変化は、自分の時間が持てるようになったことです。前の仕事は結構忙しい仕事でした。こちらに来て自分の時間が持てるようになりました。もう一つ大きな変化は健康になったことです。もともとアレルギー症で、花粉症がひどかったのですが、こちらに来て花粉症の症状が改善しました。こちらの方が花粉は多いのにと思われるかもしれませんが、花粉症の原因は花粉ですが、その花粉が都会へ飛んでゆくと排気ガスとか色々なものと吸着するのですね。それを吸うのでより症状がひどくなっていく。宇都宮ではそうでした。ところがここに来てからは生の花粉しか吸わないので、花粉症は良くなっています。

冬になるとジンマシンが出ることもありましたが、こちらに来てからは少なくなりましたし、風邪も年に 1 回ひくか、ひかないくらいになりました。宇都宮にいたころは毎日ほぼコンビニ弁当でしたが、こちらに来てからは毎日自分で料理をして食べる生活です。
食品添加物を取らなくなったからなのか、新鮮なものを食べるようになったからなのか、何が理由かわかりませんが健康になりました。ただ体重は増えてしまいました。お水とお米が美味しいからです。

【将来】
これからどのような事をしたいのか、どう生きて行くのかは、はっきりと決めてはいません。可能性を探っているところでしょうか。ただ当面は森林の分校 布沢の経営に携わりたいと考えています。いま楽しみにしていることにもなりますが、自分で企画し、ツアーを組んで、自分で連れてきたお客様と、ここ布沢で一緒に過す事にとてもやりがいを感じます。

この集落は地域おこしや、地域作り、地域の活性化に積極的な集落です。ここに来た理由

にも関わりますが、いままでは外側から応援する立場だったが、これからは集落のメンバーとして、何かを作りだそうという想いで、ここに来ました。その実践を森林の分校を拠点にして作り上げて行きたいです。

森林の分校 ふざわ　全景

【不便】
暮らし始めて困ったことは、雪かきの仕方も、草刈りの頻度が分かりませんでした。
今でこそ慣れましたが最初はどのようにしていいのか判りませんでした。ここは集落水道（沢水、湧き水等を貯め、簡易濾過して飲料水とする方式。塩素等の薬剤は入れていない）なので、大雨が降った後　水が濁ることがあります。普段は美味しい水なのですが、集落の方は大雨の後は飲まないようにしている事を知らず、飲んでしまい、お腹を壊したことがあります。

【健康】
年齢的にまだ若いので、特に気にしていることはありません。ただここに住んでいると生活リズムが自然と「早寝、早起き」になって行きます。例えば草刈りなら日中は暑くてできないから朝早く起きてするとかです。雪かきも同じですね。

【アドバイス】
やはりその地域に合う、合わないと言うことはありますので、何回か通ってもらい、一緒に行事に参加するとか、地域の方と触れ合ってもらい、その上で決断することが良いと思います。

こちらに住み始めて、こうしておけば良かったと思うこととは、何かしら物事を始めようとする時は、やはり話を通しておくべきところへ話を通しておかないと、後々面倒になることが起きる可能性があると言うことですか。それも話を通して置く先はたくさんあり、バラバラなことが多いです。区長をはじめとする区の組織だけでなく農事組合があったり、テレビ組合があったり、水道組合、草刈りの組合等、それぞれの首長と顔つなぎをして話を通しておく。何かする時にはその人に話を通しておくことが必要で、それをしてからすれば良かったと思う事が最初の 1〜2 年はよくありました。

【生活】
ご近所とのお付き合いで心がけたことは、集会や BBQ とか行事ごとには参加するように心掛けました。

【印象】
布沢を初めて訪れた時、大学 3 年生の頃ですが、その時の印象は「山を越えても、超えても辿り着かないなぁ」と感じました。「どこに連れて行かれるのだろう」とも思いました。と言うのは宇都宮から来ると峠を三つくらい越えないと到着（栃木→日光・鬼怒川→田島→駒止峠→布沢）しないのです。

それまでにも栃木県内でいろんな農村に行き、色々な活動、例えばボランティアとか草刈りとか、棚田のオーナー制度を経験してきましたが、栃木県のどの農村よりも昔のままの風景が残り、自然が豊かで、昔ながらの暮らしをしていました。言い換えると過疎が一番進んでいると感じました。

【二地域居住】
私は 2017 年 4 月に布沢に移り住みました。その後 生活が落ち着いた翌 2018 年 6 月に結婚、いま南会津町に住んでいます。この理由は妻の仕事の都合と、栃木へ戻る際の交通の便が良いからです。森林の分校にお客様がいる時は分校か布沢集落で借りている空き家に泊まりますが、お客様がいない時は田島へ戻ることが多いです。

2020 年 8 月 14 日 「森林の分校 ふざわ」にてインタビュー
インタビュアー　移住コーディネーター　生天目 博